

アジアの音楽 その3

◆チャングの楽譜

◎音楽の歴史

韓国の音楽は宮中で演奏されていた正樂（チョンアク）と、民衆の間で親しまれて来た民俗樂（ミンソクアク）2つに分類される。

（チャングはどちらにも用いられる。）

正樂は王朝時代に井間譜（チョンガンボ）という楽譜で整理されていたが、民俗樂は口伝＝口音（クウム）で伝えられて来た。

1978年に結成されたサムルノリ（四物遊撃）の活躍により韓国の打樂器が世界に広まり、それ以降西洋の楽譜や独自の楽譜など用いられるようになっていった。

◎音の表現（口音）

ヨルチェ側・・・・・・タ、タッ

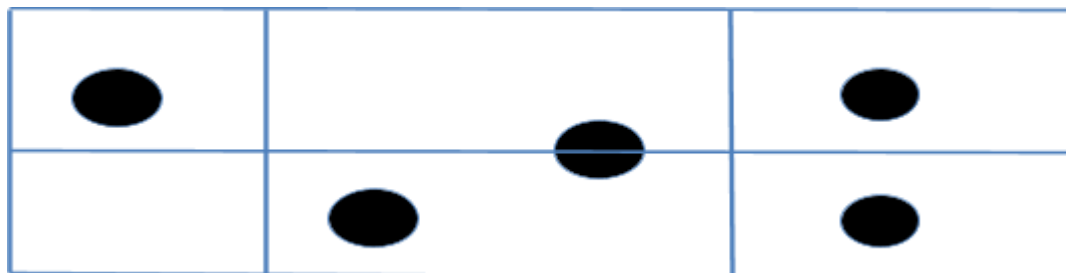
クングルチェ側・・・・・・クン、クグン

両手で打つ場合・・・・・・トン（トンドン）

* 韓国語は最初の音に濁音は付かないので日本語の太鼓的表現「ドン」ではなく「トン」となる。音が続く場合はトンドンとなる。

◎楽譜の見方

上段がヨルチェ、下段がクングルチェを表していて、両面を打つトンは上下両方に●と表記する。中心の線上の●は、クングルチェでヨルピョンを打つ時を表す。



タ（タリ）

クン
クン
(ヨルピョン側を打つ時)

トン